

これ以外にも、「集合行為と集合行動」「社会理論」「数理モデル」「社会調査と計量分析」の計5つの部会に渡って合計12本の報告があり、活発な討論が行われた。

(鈴木 透記)

人文地理学会大会

1992年度の人文地理学会大会は1992年11月7日～9日、大阪大学にて開催された。1日目の特別研究には太田勇（東洋大学）の「エスニシティ研究の課題」と題する発表があり、エスニシティ研究への地理学者の貢献の可能性について問題提起がなされた。2日目の一般研究では人口学に関連した以下の発表があった。

香川県粟島における空間構造の変化

——海員学校の閉鎖前後における人口移動の比較研究—— ……………香川 貴志（京都教育大学）

青年期における人口移動歴について……………酒井 高正（奈良大学）

わが国における中心—周辺地域間人口移動と中心都市の機能……………磯田 則彦（広島大学大学院）

高度経済成長期における日本の国内人口移動

——制約重力モデルの検証—— ……………王 徳（名古屋大学大学院）

米国メジャーシティにおけるエスニックセグリゲーションと社会問題……………實 清隆（奈良大学）

3日目にはエクスカージョンが行われ、筆者の参加したコース「大阪周縁部のエスニシティと歴史地理」は鶴橋国際マーケット・猪飼野（在日韓国・朝鮮人集住地区）などを見学した。人口移動とエスニシティ研究に関連した発表が今大会には比較的多かったが、この両分野が現在の人文地理学的関心と人口学的関心の接点であると思われる。

(中川聡史記)

第27回日本都市計画学会学術研究発表会

日本都市計画学会の第27回学術研究発表会が、1992年11月21日（土）から23日（月）までの3日間、九州大学工学部において開催された。日本都市計画学会は年1度の大会で審査論文を発表するという形態をとっており、今年度は262編の応募論文の内、審査を通過した131編の発表が行われた。人口問題研究所からは大江守之（今年度学術委員）が参加し、市街地整備に関するセッションの司会を担当した。

過去の日本都市計画学会における発表論文には、地域人口移動や地域人口推計に関するものなど人口学と直接関連する論文も存在するが、今年度の発表にはこうした性格のものはなく、交通需要と関連する研究がやや目立った。例えば、原田昇「構造変化を考慮した将来交通量の予測——東京都市圏交通計画を例として——」は高齢化が交通需要に及ぼす影響を検討しており、荒井良雄・川口太郎「休日の外出行動に対する家族のライフステージの影響」は家族のライフステージによって休日の外出行動パターンが大きく異なることを実証的に明らかにしている。また、鈴木勉「東京大都市圏における職住割当の最適化に関する実証的研究」では、職場の分散を政策的に実行した場合に通勤パターンがどう変化し、それが通勤時間の短縮にどのように影響するかが討究されている。こうした研究は、計画論的・政策論的観点から人口研究に新しい視角を提供してくれる可能性があり、その点でも興味深い。

(大江守之記)